

努力事項解説 その3 (中学校音楽)

生徒の実態とねらいに応じて、多様な学習形態を取り入れ、友達と思いや意図を共有しながら音楽表現をして、協同する喜びが感じられるような授業を展開しましょう。

- 「生徒の実態とねらいに応じて、多様な学習形態を取り入れ」、とは

小アンサンブルなど様々な編成を工夫して、生徒が表現したい方法や形態を選択して取り組むなど、生徒一人一人が個性を発揮し、主体的に活動できるようにしましょう。

ということです。

その際、「個性を発揮し、主体的に活動するために小アンサンブルなどの編成を工夫する。」という、この活動を取り入れるねらいを念頭において、それに対する生徒の実態を十分に考慮することが大切です。

例えば、四重唱や四重奏等は、学級全体で合唱や合奏を行うのに比べ、生徒一人一人に高い技能や楽曲に対する習熟が必要となります。結果として生徒に過度な要求をしてしまうことのないように配慮しましょう。

また、ねらいを明確にして取り組むことはどの形態で音楽活動を行うときも同じです。小アンサンブルを取り入れたことにより、楽曲を完成させることに意識が向いてしまうことのないように、あくまでも、設定したねらいを達成することを第一に学習活動を行うようにしましょう。

- 「友達と思いや意図を共有しながら音楽表現をして、協同する喜びが感じられるような授業を展開しましょう」、とは

合唱や合奏等、学級全員で一つの音楽をつくっていく体験を通して、表現したいイメージを伝え合ったり、協同する喜びを感じたりする指導を重視しましょう。

ということです。

例えば、校内合唱コンクールで歌う合唱曲を「表現を工夫して」等の題材で音楽の時間に取り上げる場合、次のことに配慮しましょう。

(自由曲として) なぜこの曲を選んだのか、この曲のどこが気に入って選んだのかについて「音楽の要素」と関連させて話し合いをさせましょう。

これは、生徒にその楽曲に対する思いや意図を共有させ、その後の音楽活動を主体的にすることがねらいです。例えば、

私は、この曲の、未来へ向かってがんばっていこうという歌詞の内容が今の自分の気持ちとぴったり合っているところや、前半はメゾピアノで弱めだけど3つのパートが和音で重なっていて響きがきれいなこと、後半はフォルテシモで女子と男子が追いかけるようになって盛り上がり、迫力があるところがとても気に入りました。歌うときは、前半は一つ一つの言葉を大切に和音を響かせて、後半は思い切りフォルテで女子と男子のパートが追いかけるようになっているところをはっきりと歌い、聴いている人に歌詞の内容や自分の気持ちを訴えたいです。

など、音楽の要素と関連させながら、生徒個々の思いを発表させ、それに関して意見を言わせるなどして、生徒の思いや意図を共有させていきましょう。

曲を練習していく過程で、ねらいに応じて、表現の工夫について音楽の要素と関わらせながら話し合う場を設定しましょう。

生徒の思いや意図を基に音楽の要素と関わらせながら音楽を作り上げていくために、全体練習の場で、パート練習の場で、表現の工夫について音楽の要素と関連させながら話し合う場を設定しましょう。例えば

- A この曲の前半は、和音がきれいだから、和音がちゃんと響くように気を付けて歌いたいです。(音楽の要素：テクスチャ)
- B 私もそう思います。和音をきれいに響かせるには、正しい音の高さで、柔らかい声の出し方で歌うといいと思います。
- C 私は、パートのバランスが大切だと思います。このクラスは男子の声が大きいから女子の声を消してしまわないように気を付けて歌うといいバランスととれたきれいな和音になると思います。(音楽の要素：テクスチャ)

など、音楽の要素と関わらせて、表現したいイメージを伝え合い、それを基に心を合わせて活動をしていくことにより、協同する喜びを味わうことができると思います。

なお、上記のような活動は音楽科の言語活動でもあります。そういう意味からも、表現の工夫についての思いや意図について、音楽の要素を関連させながら話し合わせることはとても意味があることです。



今回は、小学校の努力事項「児童の実態とねらいに応じて、多様な学習形態を取り入れ、友達と思いや意図を共有しながら音楽表現をして、協同する喜びが感じられるような授業を展開しましょう。」について考えていきます。9月20日（金）頃アップする予定です。